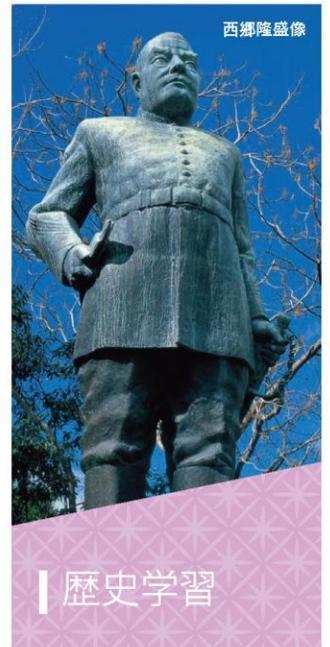


楽しみながら学びを深めよう

鹿児島県 修学旅行

学習ノート

事前学習 / 現地学習 / 事後学習



写真協力：鹿児島県南薩地域振興局

鹿児島って、どんなところ？



旧修成館



縄文杉

明治日本の産業革命遺産は2015年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の登録名称にて世界文化遺産として登録されました。鹿児島県では、旧集成館、寺山炭窯跡、関吉の疏水溝が構成資産として登録されています。これらは、19世紀後半に日本が西洋技術を導入し、近代的な産業国家へ移行していく過程を示す産業施設です。

奄美大島、徳之島は2021年に「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」の登録名称にて世界自然遺産に登録されました。鹿児島県南西部に位置し、亜熱帯の照葉樹林が広がる島です。アマミノクロウサギなど、この地域にのみ生息する固有種が多く確認されています。生物多様性の高さや独自の進化過程が評価され、関連地域と一体で世界自然遺産に登録されました。

世界文化遺産

明治日本の産業革命遺産

「旧集成館」、「寺山炭窯跡」、「関吉の疏水溝」

世界自然遺産

屋久島



鹿児島県



世界自然遺産

奄美大島、徳之島、
沖縄島北部及び西表島



奄美大島 マングローブカヤック

世界遺産

鹿児島が有する 3つの世界遺産

屋久島は1993年に世界自然遺産に登録されました。鹿児島県南方に位置する島で、標高差が大きく、多雨な気候のもと、亜熱帯性から冷温帯性の植物までが連続的に変化する植生が見られます。屋久杉に代表される原生的な森林が残り、生態系の多様性や学術的価値が評価され、世界自然遺産に登録されました。



桜島フェリー

自然 桜島と錦江湾の雄大な自然

桜島は錦江湾に位置する活火山で、噴火と溶岩活動を繰り返してきました。錦江湾は約29万年前の巨大噴火によって形成されたカルデラ湾で、湾奥に桜島が浮かぶ地形が特徴です。湾内は水深が深く、温暖な海域として漁業や海上交通の要所として利用されてきました。火山灰は土壌を肥沃にし、農業や生活文化に影響を与え、薩摩藩の歴史や地域文化の形成にも関わっています。

歴史 鉄砲伝来とキリスト教がもたらした歴史

明治維新のふるさと、鹿児島

江戸時代、薩摩藩主であった島津斉彬（なりあきら）は西洋の技術をいち早く取り入れて産業をおこし、国を強くしようとしました。また、西郷隆盛や大久保利通といった能力のある者には身分に関わらず、活躍の場を与えました。これらの人々の働きによって、薩摩藩は明治維新で大きな役割を果たしました。



若き薩摩の群像



ザビエル滞鹿記念碑

鹿児島が“はじめて”となった歴史の舞台

◆ 鉄砲の伝来

1543年、種子島の門倉岬に漂着した中国船に乗っていたポルトガル人により、日本に初めて鉄砲が伝わりました。島主の種子島時堯（たねがしまときたか）は、現在のお金で約1億円（およそ2,000両）という大金を払って2丁を購入し、それをもとに鉄砲を作らせました。やがて鉄砲は日本中へと伝わっていきました。



種子島火縄銃南部鉄砲隊

◆ キリスト教の伝来

1549年、イエズス会の宣教師フランシスコ＝ザビエルの一行がキリスト教の布教のため、鹿児島市の稲荷川河口付近に上陸しました。島津家の第15代当主、島津貴久（しまづたかひさ）の許可を得て、日本で初めての布教活動を鹿児島からスタートさせ、大分県や山口県などへも出向いて積極的に布教活動を行いました。

温泉 鹿児島は温泉王国

活火山がたくさんある鹿児島県には、火山の恵みにより県内各地に多くの温泉があります。源泉の数は全国第2位で、県内各地でさまざまな温泉を楽しむことができます。指宿名物「天然砂むし温泉」や、潮が引いた時にしか入ることができない屋久島の「平内海中温泉」など、珍しい温泉もたくさんあります。



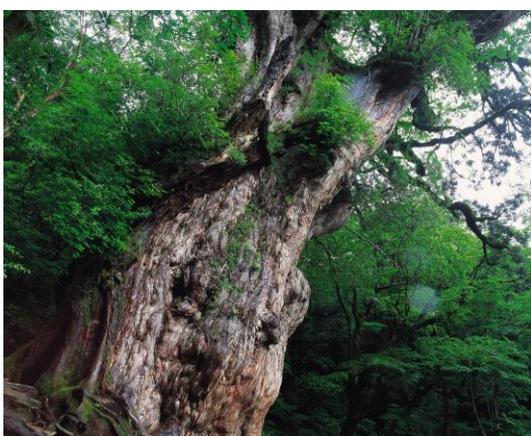
平内海中温泉



指宿砂蒸し温泉



桜島の露天風呂



屋久島/縄文杉

離島

南北約600kmに広がる数々の有人離島

鹿児島県にはたくさんの離島があり、有人離島の面積は全国第1位です。世界自然遺産の屋久島、奄美大島、徳之島をはじめ、ロケット発射場のある種子島、仮面神が現れる独特な祭りが今も伝承される十島村・三島村の島々、隆起速度が世界トップレベルの喜界島、鍾乳洞の美しい沖永良部島、砂浜の美しい与論島など、それぞれの島に多彩な魅力があります。

食 歴史と暮らしに根ざした食

鹿児島県の食は、全国的に見て生産規模が非常に大きいことが特徴です。農業産出額は全国第2位で、北海道に次ぐ位置にあります。さつまいも、豚肉、ブロイラー、肉用牛、荒茶はいずれも全国第1位の生産量を誇ります。さらに、カンパチなどの養殖漁業も国内有数です。鹿児島県は多品目で全国上位を占め、日本の食料供給を支える重要な生産拠点といえます。温暖な気候と火山灰土壌、海に囲まれた地理条件を背景に発展してきました。黒豚や黒牛、地鶏などの畜産が盛んで、さつまいもは郷土料理や焼酎の原料として定着しています。錦江湾ではカンパチやブリなどの養殖・漁業が行われ、山海の食材を生かした食文化が形成されました。保存食や発酵食品も多く、歴史と暮らしに根ざした食が特徴です。



黒豚しゃぶしゃぶ



さつまいも

カテゴリー紹介

■ ブルー・グリーンツーリズム

盛んな農業・畜産業・漁業体験を通じて自然とともに生きる力を育み、人との交流を通して社会性を養う。

鹿児島県ではグリーンツーリズムの一環として山の自然と食の地域資源を生かした民泊型教育旅行に取り組んでいます。ブルーツーリズムでは県内の漁協協力のもと、養殖場での餌やり体験や魚を捌く体験、加工や料理をすることができます。温かな人々と自然の中で、生命や食について考えてみましょう。

■ 平和学習

太平洋戦争末期、本土防衛の最前線となった地で戦争遺跡や資料館を訪れて戦時下の状況にふれ、平和と命の尊さについて学ぶ。

太平洋戦争末期、日本各地に基地や飛行機をはじめ数多く軍事施設が造られました。これらの基地は一部、特攻の基地として使用され、鹿児島県内の基地からも多くの特攻隊員が南の空へ飛び立って行きました。戦争の最前線に立たされた同年代の若者が残した家族への手紙を読み、講和に耳を傾け平和の尊さを学んでみましょう。

■ 自然体験・環境学習

豊かな自然あふれる鹿児島をいつまでも守りつづけるためにできることなど身近な環境について学ぶ。

鹿児島県は、南北約600kmにも及ぶ広大な県土に、緑豊かな森林や美しい海岸線を有し、桜島や、我が国で最初に国立公園に指定された霧島、世界自然遺産の屋久島、奄美大島や徳之島をはじめとする特色ある島々など、豊かな自然に恵まれています。その豊かな自然の中での集団行動から協調性と連帯感を身につけ、豊かな感受性を育みます。自然の多様性を様々な体験を通して学ぶと共に、豊かな自然を守りつづけるために環境問題についても考えてみましょう。

■ 歴史・文化

明治維新の礎となった近代遺産や多くの偉人が生まれた地を訪ねることで歴史の背景を学び、先人の精神にふれる。

鹿児島は幕末から明治初期にかけて日本史上、重要な舞台となり、西郷隆盛や大久保利通を輩出しました。これらの歴史を体感・学習できる施設や史跡をめぐり、歴史への理解と関心を深めましょう。また古代の生活を体感できる施設や現代アートの野外美術館などもあり歴史や文化について様々な角度から学ぶことができます。

■ その他

鹿児島ならではの個性あふれるプログラム。

鹿児島県には、種子島・内之浦に2つのロケット発射場があり、これまで数多くの人工衛星が、打ち上げられました。宇宙学習では最先端の宇宙科学技術にふれ、果てしない宇宙への夢を広げる一歩となることでしょう。また、定期船のターミナルや世界をつなぐクルーズの拠点など7つの港区で成り立っている鹿児島港、そして人々の生活に欠かすことのできない「ダム」など普段立ち入ることができない場所での見学で理解や関心を深めることができます。他にも、様々なここだけの学びが鹿児島県にはあります。

種子島

種子島スペースミッション： THE ROCKET STRATEGY

種子島の風を読み、ターゲットへの「精密着地」を成功させよ



宇宙とは

地球の大気圏外に広がる真空中に近い空間です。高度100km付近は宇宙との境界の目安とされ、ロケットはその高度を越えて宇宙空間に到達する、現時点、最も実用的な手段です。宇宙空間では、人工衛星や探査機が活躍し、人類の活動領域を広げる最前線となっています。

宇宙開発とSDGs

ロケットは人工衛星や探査機を宇宙へ運ぶ重要な手段で、さまざまな宇宙活動を支えています。宇宙開発はSDGsとも深く関わり、人工衛星の地球観測は気候変動の把握や災害対策に役立ちます。また通信技術は暮らしや産業を支える基盤となり、地球環境を守り、持続可能な社会にも貢献します。



世界の発射基地

世界にはさまざまなロケット発射基地があり、国や地域ごとに特徴があります。海に近い場所や人口の少ない地域、赤道に近い場所などが選ばれることが多いです。アメリカやヨーロッパ、アジアなどでも宇宙開発が進められており、発射基地はその国の技術や戦略と深く関係しています。

株式会社スペースサービス 南日本営業所

TEL 0997-24-4122 〒891-3703 鹿児島県熊毛郡南種子町荳永765-1

PEACE DIALOGUE

知覧「ピースパークツアー」

もし、明日が人生最後だとしたら、誰に何を伝えたい？



太平洋戦争

日本は1930年代から戦争への道を進み、1941年に太平洋戦争が始まりました。戦争が長引く中で多くの人命が失われ、戦況が悪化した1944年以降、特攻作戦が本格化し、多くの若者が出撃しました。その後、1945年8月に終戦となりました。

特攻隊

特攻隊とは、戦争末期に編成された部隊で、爆弾を積んだ飛行機などで敵艦に体当たり攻撃を行いました。若い兵士たちは国や家族を守るという命令のもと、帰還できない任務に向かいました。特攻隊の存在は、戦争が人にどれほど過酷な選択を強いたかを今に伝えています。



知覧特攻平和会館

知覧特攻平和会館は、沖縄戦で敵艦に体当たりした陸軍特別攻撃隊員の遺品や資料を展示し、当時の姿を後世に伝える施設です。特攻の悲劇と命の尊さを学び、戦争を繰り返さない恒久平和への願いを伝えることを目的として建設されました。

知覧特攻平和会館説明は知覧特攻平和館サイトより要約 <https://www.chiran-tokkou.jp/heiwakaikan.html>

未来をつなぐ「循環」体験！ 「海のゆりかご」再生プロジェクト

気候変動対策（ブルーカーボン）と地域経済（漁業）のつながりを、
身体と五感で学ぶSDGs・探究学習プログラム



海のゆりかご（自然の仕組み）

「海のゆりかご」とは、海藻や藻場、干潟など、魚や多くの生き物が生まれ育つ場所を指します。これらは海の生態系を支える重要な役割を持っています。海のゆりかごが失われると、生き物が減り、海の豊かさが保てなくなってしまうのです。

山川町漁業協同組合の取組

アマモは海水中の二酸化炭素を吸収し、光合成で酸素を供給することで、海の環境問題の改善に寄与します。鹿児島県指宿市山川町漁業協同組合は、ブルーカーボンプロジェクトとして苗の育成と藻場の造成に取り組み、持続可能な漁業と魚がこれからも食卓へ届く未来を守っています。



地域とのつながり（経済・文化）

鹿児島の海は、漁業や食文化、観光など地域の経済と深く結びついています。海の恵みは人々の仕事や暮らしを支え、長い時間をかけて地域文化を育んできました。海を守ることは、自然だけでなく、地域の未来や生活を守ることにつながります。

世界に届け！KAGOSHIMA発 TEAグローバル・マーケティング・プロジェクト

鹿児島のお茶生産の「技術」を武器に、海外市場を攻略するPRプランを提案せよ



お茶の歴史

お茶は中国で生まれ、日本には奈良時代から平安時代にかけて伝わりました。当初は貴族や僧侶の飲み物でしたが、時代が進むにつれて武士や庶民にも広がりしました。江戸時代には栽培や製法が発展し、日常生活に欠かせない飲み物として日本文化に深く根づいていきました。

鹿児島はお茶の生産量日本一

鹿児島県は荒茶生産量が全国一位です。温暖な気候に恵まれ、多品種を時期をずらして摘み取れることに加え、広大で平坦な茶畑での大型機械による効率的な生産体制が、その理由です。かごしま茶は、濃厚なコクと甘み、深みのある味わいが特徴です。



お茶の世界市場

世界では紅茶や緑茶、ウーロン茶などさまざまなお茶が飲まれており、特に紅茶は多くの国で親しまれています。近年は健康志向の高まりから緑茶への関心も高まっています。日本茶は品質の高さが評価され、海外市場への輸出やブランド化が進められています。

「伝統×革新×継承」で世界を振り向かせろ！ 『次世代ブランディング』プロジェクト！

創業150年を超える老舗「濱田酒造」の常識を覆す「本格焼酎」の戦略をヒントに、
Z世代に刺さるブランディング戦略を提案せよ



鹿児島の本格焼酎文化

鹿児島では、芋・麦・米・黒糖など多様な原料を生かした本格焼酎造りが受け継がれ、2,000を超える銘柄があります。麴造りや発酵、かめ壺仕込みなどの技術は、今も職人が守る文化で、これらを含む日本の「伝統的造り」は、2024年にユネスコ無形文化遺産に登録されています。

九州で焼酎造りが盛んな理由

九州で焼酎造りが盛んなのは、温暖な気候と豊かな原料に恵まれているためです。鹿児島ではさつまいも、九州北部では麦や米が多く生産され、焼酎の原料として利用されてきました。また高温多湿の環境に適した麴文化が発達し、独自の焼酎造りが広まりました。



焼酎作りの経済と文化について

焼酎作りは、酒造会社だけでなく農業や地域経済と深く結びついています。原料となる農作物は地元農家が支え、雇用や観光にもつながっています。また焼酎は、食事や祝い事など日常生活にも根づいた文化です。濱田酒造も地域と共に焼酎文化を守り続けています。

特攻隊の記憶から学ぶ 命の重み

鹿屋航空基地史料館



太平洋戦争

日本は1930年代から戦争への道を進み、1941年に太平洋戦争が始まりました。戦争が長引く中で多くの人命が失われ、戦況が悪化した1944年以降、特攻作戦が本格化し、多くの若者が出撃しました。その後、1945年8月に終戦となりました。

特攻隊

特攻隊とは、戦争末期に編成された部隊で、爆弾を積んだ飛行機などで敵艦に体当たり攻撃を行いました。若い兵士たちは国や家族を守るという命令のもと、帰還できない任務に向かいました。特攻隊の存在は、戦争が人にどれほど過酷な選択を強いたかを今に伝えています。



鹿屋航空基地史料館

鹿屋航空基地史料館は、第二次世界大戦中に日本最大級の海軍航空基地が置かれていた鹿屋の歴史を伝える施設です。当時使用された実物の航空機や資料、写真、映像などを通じて、戦争の史実や実態、航空隊員の生活などを学ぶことができる場所です。

はじめに

事前学習で「何だろう」と疑問を持つことから課題（問い）を見つけ、解決するための計画を立て、さらに学んできた知識や考え方、旅先で集めた情報から課題（問い）を解き明かしていき、自分だけの学びのノートを完成させましょう。

タビマエ 事前学習

第1章	鹿児島を知ろう	鹿児島のイメージを書き出してみよう	P12
		今回訪問する場所に対するイメージを書き出してみよう	P12
第2章	自分自身の興味関心を考えてみよう	興味を持ったカテゴリーや学びたいと思ったことを書いてみよう	P13
		自分自身の周りに関連するキーワードを書いてみよう	P14
		グループメンバーと一緒に取り組むカテゴリーや学びたいことを話し合ってみよう	P14
第3章	深掘りしたいテーマを決めて問いを立てよう	学習のテーマを決めよう	P15
		テーマに沿って鹿児島のことを調べてみよう	P16
		調べたことに対する問いを立てよう	P16
		調べた中で自分が興味を持ったことを書き出してみよう	P17

タビナカ 現地学習

第4章	情報を集め記録しよう	自分で見たこと・感じたことを記録しておこう	P19
		現地の人に質問してみよう	P20

タビアト 事後学習

第5章	情報をまとめよう	現地で学んだことをまとめてみよう	P21
		現地で学んだことをグループで共有しよう	P22
第6章	学んだことを発表しよう	発表する内容を整理しよう	P23
		発表しよう	P24
第7章	今回の学習を振り返ろう	学習を通じて気づいたこと・感じたことを振り返ってみよう	P25
		解決しなかった問いや、さらに知りたいと思ったことを書いてみよう	P26
		今回の学習を通じて今後自分がどうしたいか考えてみよう	P26

このノートの
使い方



個人ワーク

自分の考えや感想を記入してください。今の自分の置かれている環境や家族内での取り組みなどを考えてみましょう。



グループワーク

グループで相談して気づいたことや話し合っただういう結果になったのか、記入してみましょう。

第1章 鹿児島を知ろう

2つの半島と個性あふれる離島を持つ鹿児島県。「鹿児島」と聞いて皆さんはまず何をイメージしますか？「鹿児島ってどんなところ？」まずはここからスタートして旅行先のイメージをふくらませてみましょう。ここでは、何も調べずに自由な発想で考えましょう。

POINT

まずは、自分なりの鹿児島のイメージを書き出してみよう。
最初に抱いていた自分なりのイメージが学習後にどう変わるのかも学習のポイントです。

1 鹿児島のイメージを書き出してみよう



まずは自分なりの鹿児島のイメージについて思いつくものをどんどん書き出してみよう。

2 今回訪問する場所に対するイメージを書き出してみよう



今回の訪問する場所にどんなイメージがありますか？思いつくものをどんどん書き出してイメージを広げていきましょう。

ご指導される方へ

教育旅行の行程表を生徒に配布して取り組んでください。詳細が決まっていない場合は、候補となっている訪問先を共有するか、この項目を省略しても構いません。



第2章 自分自身の興味関心を考えてみよう

修学旅行は日常では出会えない人との出会いや現地でしか体験できないことが体験できる貴重な学びの場となります。現地を訪問する前に自分自身の興味関心について考え、現地でどのような学びができるのか考えてみよう。

1 興味を持ったカテゴリーや学びたいと思ったことを書いてみよう



P4のカテゴリーを参考に。

2 自分自身の身の回りに関連するキーワードを書いてみよう



ご指導される方へ

生徒が訪問先で学ぶことを自分事として考えることができるように、日頃の生活環境や自身の進路などに関連するキーワードを出す項目です。ここで書き出したキーワードは、取り組むカテゴリーやテーマ設定の参考となるように促してください。

3 グループメンバーと一緒に取り組むカテゴリーや 学びたいことを話し合ってみよう



第3章 深掘りしたいテーマを決めて問いを立てよう

この章では、第1・2章での自分なりの考えをもとにグループのテーマを決めます。自分が思ったこと、感じたこと、疑問に思ったことなどを遠慮なく発言しましょう。自分の意見だけ主張するのではなく、人の意見にも耳を傾けるということも大切です。

POINT

自分たちが本当に知りたい、やりたいことをテーマにしましょう

「グループのみんなが興味も持ったことは何ですか？」というポイントで話し合うとテーマが見つかりやすいかもしれませんね。

1 学習のテーマを決めよう



決定テーマ

ご指導される方へ

前章の話し合いでテーマにまとめられない場合は、1つのグループで複数のテーマを設定しても構いません。

そのテーマにした理由も書きましょう

2 テーマに沿って鹿児島のことを調べてみよう



POINT 次のテーマを見つけるポイント

調べて書きだす。この一連の作業をすることによって記憶にも残り、新たな知識になります。
「詳しく調べてみたい」と思ったことは何ですか？

ご指導される方へ

鹿児島県観光サイト「かごしまの旅」では、鹿児島県内の観光情報に加えて、教育旅行に関する学習資料も掲載していますので、参考にされてください。

https://www.kagoshima-kankou.com/houjin/study_article/about6/top

3 調べたことに対する問いを立てよう



P18の問いの立て方のヒントを参考に

ご指導される方へ

問いを立てる際、現地学習時にどうやって答えを探すのかもイメージできると良いです。

また、訪問先の方に質問ができる場合は、質問の内容まで考えておくと良いでしょう。

POINT

自ら調べることで、興味や疑問が出てきます。

疑問や問題意識を持つことで、学びの原動力になる「問い」が生まれます。
インターネットや図書館、テーマに詳しい先生に取材をするのもいいですね。

4 調べた中で自分が興味を持ったことを書き出してみよう



興味を持った理由も書きましょう。

問いの立て方のヒント

難しく考えずにまずは、「なんでだろう?」「どうしてだろう?」と疑問に思うことから問いを考えてみましょう。

問いの種類

「問い」の特徴	「問い」の例
① 原因（なぜ）を問う「問い」 →その事象や状況、結果に対する原因は何か?	<ul style="list-style-type: none">■なぜ鹿児島は〇〇なのか?■なぜ鹿児島では〇〇が盛んなのか?■なぜ鹿児島で〇〇が起こったのか?
② 比較をおこなう「問い」 →他の対象と比較することで、その程度や異なる側面を知る	<ul style="list-style-type: none">■〇〇はどれくらいのレベルなのか? (程度の比較)
	<ul style="list-style-type: none">■他の地域ではどうなのか?■〇〇のための条件は何か? 異なる条件ではどうなるのか? (他の地域や条件との比較)
③ 影響を問う「問い」 →実際に今、どのような影響が生じているのか? →今後どのような影響が生じるのか?	<ul style="list-style-type: none">■過去と比べて〇〇はどのように変化しているのか? (過去との比較)
	<ul style="list-style-type: none">■〇〇はどのような影響をもたらしたのか?■〇〇によって今後どのようなことが起こるのか? (影響)
④ 方法や関連性を問う「問い」 →どのような方法を用いるのか? →その事象や状況にはどのような関連があるのか?	<ul style="list-style-type: none">■どのようにして〇〇はおこなわれているのか?■〇〇と△△にはどのような関連があるのか?

第4章 情報を集め記録しよう

現地で、グループテーマや問いに沿って情報を集めましょう。施設の方やガイドさんに質問をしましょう。歴史や文化、そこに暮らす人たちとの触れ合いを通して「問い」の答えを見つけるとともに、新たな発見もあるでしょう。

POINT

現地を見て感じたことや、気づいたことをメモで残しておきましょう。人の名前や場所も残しておけば、後の振り返りの時に役立ちます。

1 自分で見たこと・感じたことを記録しておこう



2 現地の人に質問してみよう



A large empty rectangular box with a thin black border, intended for notes or a list of questions.

POINT

情報を集めるときのポイントは訪れる場所を「取材」することです。目的を持って、事前に質問事項を整理しておきましょう。写真や動画を撮っておくことも現地での記憶のためにおすすめです。

第5章 情報をまとめよう

1 現地で学んだことをまとめてみよう



現地で集めた情報を整理して問いの答えを見つけていきましょう。

旅先で見つけた様々な情報を見返してみましよう。

2 現地で学んだことをグループで共有しよう



A large, empty rectangular box with a thin black border, intended for students to write their reflections or share their experiences from the field.

第6章 学んだことを発表しよう

この章ではこれまでの学習を聞き手に伝えるために発表をします。

相手に伝えようとするすることで、これまでの活動を再認識できます。他のグループの発表を聞いてアドバイスをしたり、されたりすることで今後のよりよい発表につながります。

1 発表する内容を整理しよう



1. グループのテーマ
2. 一番伝えたいことを決めよう
3. 発表する内容を箇条書きにしよう

POINT

発表の仕方を工夫することで面白さが倍増します。

発表のやり方もスライド、レポートなど様々な方法があります。グループでオリジナルの新聞を作るのもいいですね。記者や編集者になった気分も味わえると思います。必ずしもまとめたことを発表するだけでなくてもいいです。楽しく取り組める発表方法をグループで話し合うのもいいですね。

POINT

人前で発表するということで、自信にもつながります。

よりよく発表するために、グループ内で繰り返し練習し、アドバイスし合うことも大切です。また自分たちの練習を動画に撮り、見返すことも効果的です。

他のグループメンバーからも感想を聞き、新たなステップへつなげましょう。

2 発表しよう



自分のグループへの意見やコメントをもらおう

他のグループの発表で気づいたことを伝えよう

POINT

本番の発表を聞いて、他のグループのよかったところや参考になるところを書き出しましょう。書き留めておくことで記憶にも残り振り返りに役立ちます。

第7章 今回の学習を振り返ろう

この章では、これまでの学習内容を振り返ります。全体を振り返ることで、自分自身の内面の変化にも気づくかもしれません。自分の住む地域でも修学旅行を通した学びを身近な問題として考えることができることでしょう。

POINT これまでの記録を見返して、探究的な学びを振り返りましょう。

これまでに取り組んできた「テーマを決める」「問いを立てる」「情報収集する」「情報をまとめる」「発表する」という一連の活動が“探究的な学び”です。

1 学習を通じて気づいたこと・感じたことを振り返ってみよう



第1章で書き出した学習を始める前に抱いていた自分のイメージと学習を終えた後で、イメージが変わったことや新しい気づきなどありましたか？振り返って感じたことを書きましょう。

2 解決しなかった問いや、さらに知りたいと思ったことを書いてみよう



学習を始める前には気づかなかったことを見つけることはできたでしょうか？学習を終えた自分に向けて、率直な気持ちを言葉にしてみましょう。

3 今回の学習を通じて今後自分がどうしたいか考えてみよう



ご指導される方へ

事前学習・現地学習を通じて得た学びを日々の生活で実践することや、新たに生まれた問いの答えを探ることなど、自身の次の行動を考えることで、知識の習得だけに終わらないようにしましょう。

学んだことを自分の住む地域と比べてみることによって、より身近な問題として考えられます。



鹿児島県



鹿児島県観光サイト

かごしまの旅